

ごあいさつ

組合員・利用者の皆様には、日頃よりJAいしのまきの事業運営に対し格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、当JAの経営方針や事業・財務状況をはじめ、JA自己改革の取り組みなどを紹介した「ディスクロージャー誌2019」を発行いたしました。ぜひ、ご高覧いただき当JAへのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

さて、平成30年度は第5次中期経営計画の最終年度と位置付け事業に取り組み、組合員ニーズに応えられる営農指導・販売体制を強化してまいりました。また、当JA独自で創設した農業振興基金を活用した「農業振興支援対策事業」に取り組み、生産規模拡大を目指す農業者などに対し積極的に支援対策を講じ、農業者の所得増大に向け取り組んでまいりました。

基幹作物である稲作は、国内での米消費量が減少する中、販路を海外に向け、輸出用米に対応した「中央カントリーエレベーター」が完成し9月より稼動し、10月には国際水準である「ASIAGAP」（玄米）と「JGAP」（精米）の団体認証を国内初となる同時取得しました。園芸は、実需の要望もあり「ちぢみゆきな」の生産拡大をはじめ、直売所の出張販売など地域に密着した取り組みを展開しました。畜産では、和牛改良組合の育種組合への昇格に向け県内3和牛組合で合同研修会を開き、来る第12回全国和牛能力共進会を目指し繁殖雌牛群の整備に取り組みました。

事業運営では、JAの強みである総合事業を展開し、健全な経営・財務基盤の確立に努めた結果、事業利益4億77百万円を計上することができ、財務状況も自己資本比率13.53%と基準を大きく上回る経営を実現できたのは、組合員と地域住民皆様のJA活動への参加とJA事業のご利用によるものと深く感謝申し上げます。

令和元年度は、JA自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を堅持し、総合事業を着実に実践することで先行き不透明な農業情勢ではありますが、JAの財務基盤を万全なものに築き、安定した事業経営を展開し組合員への営農・生活支援、サービスの提供を継続してまいります。

今こそ協同組合運動の原点に返りJAを拠り所に組合員一人ひとりの力を結集し、なお一層「必要とされるJAいしのまき」を皆様とともに築いて参りますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和元年 7月

 いしのまき農業協同組合

代表理事組合長 松川孝行